

元気

まち物語

2013.7



海響館ホエルボランティア

登録してから鯨類について勉強を始めた人など構成はさまざまで、ボランティア同士で鯨類について教え合い、教わり合いながら、楽しんで活動しています。

自主的に、積極的に

「鯨類の生態調査」と聞くと活動も難しそうな印象を受けましたが、話を聞くと、どれも楽しそうで、誰でも挑戦できそうなものばかりです。

年に2回の勉強会で、クジラの体についてや、鯨類が海岸に打ち上げられたとき(ストランドینگ)の対応などを学びます。そして実際に、海岸に打ち上げられたり、流れ着いたりした鯨類の対応(写真撮影や解剖など)の補助を行うこともあります。

他にも、年末の恒例となったシロナガスクジラ全身骨格標本のすす払いをします。はげや筆でほこりを除くなど、傷つかないよう細心の注意を払います。全身骨格標本は世界に数体しかなく、国内で唯一海響館1階に展示されています。このようにさまざまな活動を行っています。

地球環境の保護を考える

活動の一つ、スナメリ観察会を取材しました。スナメリは大きくなっても1.8〜1.9m程度の背びれを持たない小さなクジラの仲間です。平成21年から三軒屋海岸(長府宮崎町)で毎月2回の定点観測を行い、季節や潮による出現頻度などを調査しています。この日も、少なくとも5回以上は「出た!出た!」と、スナメリが海面につるつとした体を現すたびに、声飛び交っていました。

こういったボランティア一人ひとりの努力が、日本動物大賞動物愛護賞につながりました。「地元の方の協力もあって続けられます。この賞を励みに、楽しく活動していきたい」とボランティアの方も話していました。これからの活躍に、ますます期待が寄せられます。

- ① スナメリの体について勉強中。
- ② 海面に姿を現すスナメリ(三軒屋海岸から会員が撮影)。
- ③ シロナガスクジラ全身骨格標本のすす払い。
- ④ ホエルボランティアの皆さん。
- ⑤ 三軒屋海岸に設置されたスナメリの観測場所を示す看板。

